

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職等それぞれの進路へ向けて円滑な活動をできるように、さらに就職後に活躍できる人材になるために、一般常識の学習、業界研究、資格研究、履歴書の書き方、自己PR方法を習得する。
到 達 目 標	1.自己分析をしたうえで、自らの能力、意思について、適切に表現できる。 2.志望する業界、技術動向について、自ら調べることができる。 3.自分の意見を述べることができ、かつ、適切なコミュニケーションをすることができる。
教 科 書	自己分析演習にて『受かる！自己分析シート(著者:田口久人、日本実業出版社)』を使う。
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介 2 キャリアと仕事へのアプローチ 3 仕事の基本となる8つの意識 4 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 5 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 6 指示の受け方と報告、連絡・相談 7 話し方と聞き方のポイント 8 話し方と聞き方のポイント 9 来客応対と訪問の基本マナー 10 来客応対と訪問の基本マナー 11 会社関係でのつきあい 12 仕事への取り組み方 13 ビジネス文書の基本 14 電話応対 15 統計・データの読み方・まとめ方 16 統計・データの読み方・まとめ方 17 情報収集とメディアの活用 18 情報収集とメディアの活用 19 会社を取り巻く環境と経済の基本 20 JLPT試験対策 21 JLPT試験対策 22 業界研究 23 自己分析 24 自己分析 25 履歴書・エントリーシートの書き方 26 履歴書・エントリーシートの書き方 27 企業説明、就職面接について 28 面接対策 29 面接対策 30 面接対策
成 績 評 価 方 法	1)試験点=70% 2)出席・平常点=30% 授業内の模擬テスト、ロールプレイングの取り組み具合なども考慮。 JLPTなどの検定試験合格時には、加点点評価。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報リテラシー	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・基本情報技術者試験が対象としている情報リテラシー及びIoTについて学習する。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得を目指す。
教 科 書	[改訂第5版]基礎からわかる情報リテラシー(著者:森本尚之, 奥村晴彦、技術評論社)
年 間 授 業 計 画	1 表計算ソフトの基本機能 2 セルの参照機能 3 表計算ソフトの関数 4 IF関数の使い方 5 表計算分野の筆記問題演習 6 DBMS(データベース管理システム)の機能 7 排他制御機能 8 データ更新とリカバリ 9 関係データベースの仕組み 10 表設計とフィールドのルール 11 データベースの設計に使うE-R図 12 データ操作に使う演算 13 データベース分野の筆記問題演習 14 前期復習問題演習 15 開発プロジェクトのマネジメント 16 ITサービスの調達 17 IOT 戦略・企画 18 IOT プロジェクトマネジメント 19 IOT 人材育成と企業間連携 20 エネルギー関連のIOT 21 身近なIOT 22 産業界のIOT 23 海外におけるIOTプロジェクト 24 IOT関係の標準規格 25 通信関連の法律 26 製造および航空法に関する法律 27 ライセンス 28 IOT デバイス 29 IOT プラットホーム 30 IOT データ分析
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②平常点=70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報処理概論	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	基本情報技術者試験シラバスv9.0の内容について、講義および問題演習を行う。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験に合格できる力を養う。 ・社会のなかでどのように情報処理が活かされているかを理解する。
教 科 書	令和07年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室(技術評
年間授業計画	1 第1章 コンピュータ構成要素 2 第1章 コンピュータ構成要素 3 第1章 コンピュータ構成要素 4 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 5 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 6 第3章 基礎理論 7 第3章 基礎理論 8 第3章 基礎理論 9 第5章 システム構成要素 10 第5章 システム構成要素 11 第6章 データベース 12 第6章 データベース 13 第6章 データベース 14 前期試験対策 15 前期試験 16 第7章 ネットワーク技術 17 第7章 ネットワーク技術 18 第7章 ネットワーク技術 19 第8章 情報セキュリティ 20 第8章 情報セキュリティ 21 第8章 情報セキュリティ 22 第9章 システム開発技術 23 第9章 システム開発技術 24 第10章 マネジメント系 25 第10章 マネジメント系 26 第11章 ストラテジ系 27 第11章 ストラテジ系 28 第12章 科目B対策 29 後期試験対策 30 後期試験
成績評価方法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	受講者の理解や演習の進捗状況により、授業内容や進度を変更することがある。

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報数学	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 水尾吉孝 グローバル・アイ、クレアール、NES、LEC、TACという就職試験予備校で、公務員試験(数的処理)とSPI試験(非言語系)の授業を、本校舎及び、出講先の大学・短大・専門学校各校舎内で行っております。		

授業科目情報

授 業 内 容	・各セクション毎に、授業ファイルがあります。 ・その授業ファイルの文章中の□や訂線部の中を、先生の話ヒントに、自力で埋めて貰います。 ・テキストの出題元は、SPI試験、公務員試験、中・高・大・院の学内試験のそれぞれより、一部抜粋したものを利用。
到 達 目 標	・数学を学んで得られるのは、計算力でも公式でもありません。 ・「発想力」です。あとそれに伴う図形的センスとか・・・。 ・それらを養う事が目標です。
教 科 書	オリジナルテキスト
年 間 授 業 計 画	1 #1 順序公理 2 #2 表の計算 3 #3 推論 4 #4 場合の数 5 #5 確率 6 #6 料金計算 7 #7 料金割引 8 #8 料金分割 9 #9 速度 10 #10 割合 11 #11 代金 12 #12 資料 13 #13 整数 14 前期期末試験対策 15 前期試験 16 #0 計算技法 17 #14 グラフ 18 #15 物の流れ 19 #16 フローチャート 20 #17 数列 21 #18 三角比 22 #19 ベクトル 23 #20 行列 24 #20 行列 25 #20 行列 26 #21 合同式 27 #21 合同式 28 #21 合同式 29 後期試験対策 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	アルゴリズム	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・IT系技術者として必須のアルゴリズム(流れ図の作成方法、問題の解決技法、プログラムの組立方法)について学習します。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得&実際にプログラミングに組み込める実践力獲得を目指す。
教 科 書	うかる！基本情報技術者 [科目B・アルゴリズム編] 2024年版(著者:福嶋 宏訓、日本経済新聞)
年 間 授 業 計 画	1 基本的なアルゴリズム1 2 基本的なアルゴリズム2 3 基本的なアルゴリズム3 4 基本的なデータ構造1 5 基本的なデータ構造2 6 基本的なデータ構造3 7 探索1 8 探索2 9 探索3 10 探索4 11 スタックとキュー1 12 スタックとキュー2 13 再帰的アルゴリズム1 14 再帰的アルゴリズム2 15 再帰的アルゴリズム3 16 再帰的アルゴリズム4 17 ソート1 18 ソート2 19 ソート3 20 ソート4 21 ソート5 22 ソート6 23 ソート7 24 ソート8 25 ソート9 26 線形リスト1 27 線形リスト2 28 線形リスト3 29 線形リスト4 30 総合復習課題演習
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	表計算実習	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業研修等にて基本・応用・資格対策講習に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	以下のExcelの基本的な操作を学習し、学習項目ごとに練習問題を実施し操作の習得を行います。 ・データの入力、表作成・数式や基本的な関数を用いた計算、グラフ作成、データベース機能の操作 ・画像、図形、Smartartの挿入
到 達 目 標	パソコンの基本操作・日本語の文字入力や変換を身に着けた後、表計算ソフト「Excel」の基本的な表計算、グラフ作成、データベース機能の操作をしっかりと身につけ、2年次の応用につなげます。
教 科 書	よくわかる Microsoft Excel 2024 基礎(FOM出版)
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、Excelの基礎知識、 2 データの入力と編集、範囲の選択、オートフィルの利用 3 表の作成(数式の入力、関数の入力) 4 表の作成(罫線やセルの塗りつぶし等) 5 データの表示形式、配置、フォントの設定 6 列や行の操作 7 総合復習問題 8 関数の入力方法、関数の利用 9 相対参照と絶対参照 10 総合復習問題 11 グラフの作成 12 総合復習問題 13 表の印刷 14 総合副種問題 15 前期試験 16 前期復習 17 複数シートの操作(シート名の変更、移動とコピー、作業グループ、シート間集計、別シートのセル参照) 18 データベースの利用 19 検索と置換、PDFファイルとして保存 20 テキスト「MOS Excel2365対策テキスト&問題集」Lessonを実施 21 テキスト「MOS Excel2365対策テキスト&問題集」Lessonを実施 22 テキスト「MOS Excel2365対策テキスト&問題集」Lessonを実施 23 テキスト「MOS Excel2365対策テキスト&問題集」Lessonを実施 24 テキスト「MOS Excel2365対策テキスト&問題集」Lessonを実施 25 テキスト「MOS Excel2365対策テキスト&問題集」Lessonを実施 26 テキスト「MOS Excel2365対策テキスト&問題集」Lessonを実施 27 出題範囲ごとの確認問題を実施 28 出題範囲ごとの確認問題を実施 29 出題範囲ごとの確認問題を実施 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験および課題の提出70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	ワープロ実習	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業等にて基本・応用・資格対策講習に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	主に以下の内容を実習形式で学習します。 ・ひよこタイピング練習サイトを使用してタイピングのポジショニング練習から始め、P検タイピング練習のサイトを使用して日本語の入力練習。 ・文字の入力から表や画像、図形、Smartartの文書への挿入等編集を行い文書を作成。
到 達 目 標	パソコンの基本操作・日本語の文字入力や変換をしっかりと身に着けた後、世界各国の企業、学校で標準的に使用されているワープロソフト「Word」で、今後に必要な不可欠な文書の作成、また日本語ビジネス文書の作成操作をしっかりと学んでいきます。 さらに、MOS Word365資格取得の練習もします。
教 科 書	留学生のためのかんたんWord入門 MOS Word2016対策テキスト&問題集
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、パソコン操作と日本語入力の基本(学籍番号と名前(かたかな)の入力) 2 ひよこタイピングでポジション練習、入力モードと日本語IME、ひらがなの入力と漢字変換 3 ひよこタイピングでポジション練習、単語の入力練習、文章の入力→文書の保存 4 ひよこタイピング練習、Wordの基本、簡単な文書作成→保存 5 ひよこタイピング練習、文字書式の設定 6 ひよこタイピング練習、段落書式の設定 7 ひよこタイピング練習、文書の入力と書式設定練習問題 8 ひよこタイピング練習、表の作成 9 ひよこタイピング練習、表の作成 10 ひよこタイピング練習、グラフィック要素1 11 ひよこタイピング練習、グラフィック要素2 12 ひよこタイピング練習、グラフィック要素3 13 ひよこタイピング練習、練習問題 14 ひよこタイピング練習、練習問題 15 試験実施 16 P検タイピング練習、前期の総復習→練習問題 17 P検タイピング練習、Smartart 18 P検タイピング練習、Smartart 19 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 20 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 21 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 22 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 23 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 24 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 25 P検タイピング練習、MOS-Word365練習 26 P検タイピング練習、MOS-Word365練習 27 P検タイピング練習、MOS-Word365練習 28 試験実施(タイピング、MOS-Word365模擬試験実施) 29 ビジネス文書の作成と差し込み印刷 30 ビジネス文書の作成と差し込み印刷
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②平常点(課題の提出)=前期20% ③試験=前期50% 後期50% ・上記3つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	C言語	授 業 方 法	講義・実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・C言語について文法からプログラム作成の基本までを講義・実習を通して学び、プログラミング作成能力を身につけます。プログラムの流れの分岐や繰り返し等を理解し、配列、ポインタ、構造体、共用体についての知識を習得します。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得&実践的なプログラミング能力の獲得を目指す。
教 科 書	C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(著者:三谷純、翔泳社)
年 間 授 業 計 画	1 まずは慣れよう1 2 まずは慣れよう2 3 演算と型1 4 演算と型2 5 プログラムの流れの分岐1 6 プログラムの流れの分岐2 7 プログラムの流れの繰り返し1 8 プログラムの流れの繰り返し2 9 配列1 10 配列2 11 関数1 12 関数2 13 基本型1 14 基本型2 15 前期総合復習課題演習 16 いろいろなプログラムを作ってみよう1 17 いろいろなプログラムを作ってみよう2 18 文字列の基本1 19 文字列の基本2 20 ポインタ1 21 ポインタ2 22 文字列とポインタ1 23 文字列とポインタ2 24 構造体1 25 構造体2 26 共用体1 27 共用体2 28 ファイル処理1 29 ファイル処理2 30 後期総合復習課題演習
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	総合日本語	授 業 方 法	講義・実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	180時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 45コマ 後期 45コマ
単 位 数	12.0	週 間 授 業 数	前期 3回 後期 3回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:半井麻里 都内日本語学校講師、海外(フランス)イベント・ガイド通訳翻訳業務、現地日本語学校非常勤講師等に従事。		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本語能力試験(JLTP)N2レベルの言語知識(文字語彙・文法)や聴解・読解の定着を図り、日常生活やビジネス場面で運用できるようにする。生教材なども利用し、学んだ言語知識が社会的・学術的場面でどのように使われているかを理解する。
到 達 目 標	日本語能力試験(JLPT)N2レベル相当の言語知識(文字語彙・文法)や聴解・読解の定着を図り、実際の場面で正確に運用できることを目指す。
教 科 書	・『日本語総まとめN2』(アスク出版)の漢字・語彙・文法・読解、その他読解・聴解
年 間 授 業 計 画	1 第1週1, 2日 2 第1週3, 4日 読解 3 第1週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 4 第2週1, 2日 作文 5 第2週3, 4日 6 第2週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 7 第3週1, 2日 聴解 8 第3週3, 4日 9 第3週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 10 第4週1, 2日 読解 11 第4週3, 4日 12 第4週5, 6日 作文 13 復習(第1週、第2週) 読解 14 復習(第3週、第4週) 聴解 15 前期試験 16 第5週1, 2日 読解 17 第5週3, 4日 18 第5週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 19 第6週1, 2日 20 第6週3, 4日 作文 21 第6週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 22 第7週1, 2日 23 第7週3, 4日 聴解 24 第7週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 25 第8週1, 2日 26 第8週3, 4日 27 第8週5, 6日 読解 28 復習(第5週、第6週) 聴解 29 復習(第7週、第8週) 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	・前期試験と後期試験を実施する。基本的には日本語能力試験(JLPT)対策として言語知識を問う選択問題を作成するが、授業での貢献度、言語知識の運用達成度も加味して評価する。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職等それぞれの進路へ向けて円滑な活動ができるように、さらに就職後に活躍できる人材になるために、一般常識の学習、業界研究、資格研究、履歴書の書き方、自己PR方法を習得する。
到 達 目 標	1.自己分析をしたうえで、自らの能力、意思について、適切に表現できる。 2.志望する業界、技術動向について、自ら調べることができる。 3.自分の意見を述べることができ、かつ、適切なコミュニケーションをすることができる。
教 科 書	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック(日本能率協会マネジメントセンター)
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 日本での就職について 3 日本での就職について 4 キャリアについて 5 キャリアについて 6 自己分析 7 自己分析 8 自己PRとは 9 自己PRとは 10 業界研究 11 業界研究 12 企業研究 13 企業研究 14 志望理由とは 15 志望理由とは 16 履歴書・エントリーシート作成 17 履歴書・エントリーシート作成 18 履歴書・エントリーシート作成 19 筆記試験対策 20 筆記試験対策 21 面接対策 22 面接対策 23 就職活動点検 24 ビジネスマナー実践 25 ビジネスマナー実践 26 コミュニケーション能力向上グループワーク 27 コミュニケーション能力向上グループワーク 28 身だしなみ 29 就職活動点検 30 後期まとめ
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験および授業課題到達度70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	情報化と経営	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・基本情報技術者試験範囲(情報化と経営)及び簿記の基本を学習する。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得を目指す。
教 科 書	独自教材
年 間 授 業 計 画	1 簿記の基礎 2 商品売買 3 現金預金 4 手形と電子記録債権(債務) 5 有形固定資産 6 その他の取引 7 帳簿 8 試算表 9 伝票と仕訳日計表 10 決算手続き1 11 決算手続き2 12 決算手続き3 13 ITサービスマネジメント 14 前期復習問題演習 15 企業活動の基礎知識 16 企業の会計業務 17 財務や会計処理に係る計算 18 分析手法とプロセス改善手法 19 経営戦略と経営分析 20 マーケティング戦略 21 ビジネス戦略と技術開発戦略 22 情報システム戦略とシステム活用 23 経営管理システム 24 エンジニアリングシステム 25 e-ビジネス 26 ソリューションビジネス 27 知的財産を守る法律 28 セキュリティを守る法律 29 労働関連・取引関連の法律 30 企業が負う法令遵守の責任
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②平常点=70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	表計算実習	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業研修等にて基本・応用・資格対策講習に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	1年次に学んだ内容を踏まえ、さらに応用的な関数やグラフ作成を学習します。 MOS Excel365のスペシャリスト合格ラインまでの学習をします。 日本商工会議所「PC検定データ活用3級」、日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験(表計算)」等の問題を実施し、実践的な能力を身につけます。
到 達 目 標	機能を知っているのみならず、さまざまな場面においてその機能を効果的に使いこなせるよう目指します。 MOS Excel365のスペシャリスト合格レベル。 日本商工会議所「PC検定データ活用3級」の合格レベル。 日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験(表計算)」の1級レベル。(出来る人は初段レベル)
教 科 書	よくわかる Microsoft Excel 2024応用 (FOM出版) MOS Excel365対策テキスト&問題集
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、Excelの基礎知識の復習(表の作成、計算と関数、グラフ、データ操作) 2 MOS Excel365対策&問題集より1年次に未学習のLesson実施 3 MOS Excel365対策&問題集より1年次に未学習のLesson実施(関数) 4 各出題範囲の確認問題 5 各出題範囲の確認問題 6 各出題範囲の確認問題 7 各出題範囲の確認問題 8 各出題範囲の確認問題 9 模擬試験の学習 10 模擬試験の学習 11 模擬試験の学習 12 模擬試験の学習 13 模擬試験の学習 14 模擬試験の学習 15 前期試験 16 ピボットテーブル 17 関数の利用(ROUND関数、ROUNDDOWN関数、ROUNDUP関数) 18 関数の利用(RANK.EQ関数、IF関数、IF関数のネスト) 19 関数の利用(TODAY関数、DATEDIF関数) 20 関数の利用(VLOOKUP関数、VLOOKUPとIF関数の組み合わせ) 21 日本商工会議所「PC検定データ活用3級」練習問題1～3 22 日本商工会議所「PC検定データ活用3級」練習問題1～3 23 日本商工会議所「PC検定データ活用3級」練習問題1～3 24 日本商工会議所「PC検定データ活用3級」練習問題1～3 25 テスト-日本商工会議所「PC検定データ活用3級」練習問題1～3 26 日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験(表計算)」4級→3級→準2級→2級→準1級→1級 27 日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験(表計算)」4級→3級→準2級→2級→準1級→1級 28 日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験(表計算)」4級→3級→準2級→2級→準1級→1級 29 日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験(表計算)」4級→3級→準2級→2級→準1級→1級 30 日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験(表計算)」4級→3級→準2級→2級→準1級→1級
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験および課題の提出70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	C言語	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	自ら処理の流れを設計、プログラミングできるようにするため、1年次の「C言語」「アルゴリズム」を土台として授業を実施する。 項目ごとに、教科書を用いた解説・サンプルプログラム、基本的な問題、発展的な問題演習を順番に実施することで、知識と能力を拡張できるように工夫する。
到 達 目 標	1. 基本的な開発の手順を理解し、実践できる。 2. 与えられた課題を適切に分解し、データとその処理の流れに置き換えて表現できる。 3. 問題を解く手順を、知っている手法と関係づけたり、または文献等で調べながらでも表現することができる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 1年次復習 2 入出力と演算子 3 入出力と演算子 4 入出力と演算子(ビット演算) 5 入出力と演算子(ビット演算) 6 処理の流れ 7 処理の流れ 8 関数 9 関数 10 配列 11 ポインタ 12 ポインタ 13 構造体 14 構造体 15 前期試験 16 構造体 17 リスト 18 リスト 19 共用体 20 共用体 21 列挙体 22 ファイル処理 23 ファイル処理 24 ファイル処理 25 標準関数 26 総合演習 27 総合演習 28 総合演習 29 総合演習 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	Java	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・JAVAプログラミング能力育成を行います。
到 達 目 標	・Java SE Bronze試験合格レベルのプログラミング能力達成。
教 科 書	スッキリわかるJava入門 第4版、オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE(試験番号1Z0-818)
年 間 授 業 計 画	1 実習環境説明・eclipse操作実習 2 JAVAプログラムの書き方 3 式と演算子 4 条件分岐と繰り返し 5 配列 6 メソッド 7 複数クラスを用いた開発 8 オブジェクト指向 9 インスタンスとクラス 10 さまざまなクラス機構 11 継承 12 高度な継承 13 多態性 14 カプセル化 15 前期総合復習課題 16 Javaを支える標準クラス 17 文字列と日付の扱い 18 Webサイトアクセスのまとめ 19 コレクション 20 ArrayListの使い方 21 LinkedListの使い方 22 Set関連のクラス 23 Mapの使い方 24 コレクションの応用 25 例外 26 総合演習1 27 総合演習2 28 総合演習3 29 総合演習4 30 総合演習5
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学科名	IT 学科	年次	2年
授業科目名	インターネットホームページ制作	授業方法	実習
年度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開講学期	前期・後期	授業コマ数	前期 15コマ 後期 15コマ
単位数	4.0	週間授業数	前期 1回 後期 1回
担当教員・略歴	担当: 折茂美帆子 - 実務 (Panasonic HP企画運用/デジタルマーケティングなど) ・大学 (情報科学/Data Science/AIなど) ・新入社員SE研修 (富士通/SoftBank/東京三菱UFJなど) ・キャリア (税務大学/大原DX研修/企業研修Digital Marketing)		

■授業科目情報

授業内容	HTML/CSSの基礎を身につけ、WebサイトとLPをWordPress (Figmaについては、学生の進捗状況による) で制作します。企画・設計から実践的な制作運用までを学び、ポートフォリオを完成させます。WordPressサイトを利用したノーコードのWebサイト作成を行う。
到達目標	①HTML/CSSの基本を理解し、自分で簡単なWebサイトを制作できる ②WordPressを使ってLP制作・サイト運用ができる ③ポートフォリオサイトを制作し、発表できる
教科書	HTML ワークブック ステップ30
年間授業計画	1 制作 HTMLとは ファイルの構成と表示の仕組み 2 制作 HTML-タグと見出し 3 制作 HTML-文字の書式 4 制作 HTML-画像の掲載 5 制作 HTML-リンクの作成 6 制作 CSS-基礎-文字と背景 7 制作 CSS-サイズ枠線余白と装飾 8 制作 HTML-div要素とspan要素 9 制作 CSS-回り込み 10 制作 CSS-リンクのCSS 11 制作 CSS-フレックスボックスのCSS 12 制作 HTML-表とリスト 13 制作 HTML-レイアウト/フォルダ/フォームの作成 14 制作 ポートフォリオの作成 15 前期試験・課題提出 16 制作 WordPress(LP)の導入と基本設定 17 制作 WordPress(LP)テーマ選定・カスタマイズ方法 18 制作 固定ページ・投稿ページ作成とコンテンツ運用 19 制作 ポートフォリオの作成 20 制作 WordPress(LP)基礎 プレゼンテーション 21 運用 運用設計 22 運用 フレームワーク (figma / Excel) 23 運用 制作スケジュールとタスク管理 24 運用 UIデザイン設計 25 運用 WordPress連携コンテンツ制作 26 運用 デザインレビューと改善ポイント抽出 27 運用 サイト最適化とユーザビリティ向上 28 運用 公開前チェックとトラブルシューティング 29 運用 ポートフォリオの作成 30 後期試験・課題提出
成績評価方法	①出席率 30% ②試験及び課題提出・受講姿勢 70% 上記2項目の合計を100点満点とし、成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT 学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	プレゼンテーション実習	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 小山田 和枝 民間企業のプログラマーとして就職。電子部品の商社勤務。大学の非常勤講師、アプリケーションテキスト作成業務、東京都障害者就職支援学校 非常勤講師。MOS資格取得授業、コンピュータサービス技能評価試験指導などを担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	プレゼンテーションの概念を認識させ、企画作成のための基本的知識や、グラフやチャートの効果的な使い方ははじめ、商品説明や企画会議等のプレゼンテーション技法の体得する。 PowerPointにて、わかりやすいプレゼンテーションを作成する技法について学ぶ。 MOS資格合格に向けて模擬問題テストプログラムを使用して学習する。
到 達 目 標	プレゼンテーションの作成から、リハーサル、発表までの流れを習得する。 「MOS検定 PowerPoint 365対策テキスト&問題集」を使ってMOS資格合格に向けて、実際のMOS検定と同じ環境でのシミュレーションテストにて就職に結びつく技能を習得する。
教 科 書	「よくわかるPowerPoint2024テキスト」 「MOS検定 PowerPoint 365対策テキスト&問題集」
年 間 授 業 計 画	1 プレゼンテーションとは PowerPointの概要 (Excel・Wordの基礎知識確認) 2 第1章 PowerPointの基礎知識 3 第2章 基本的なプレゼンテーションの作成 4 第3章 表の作成 表の修正 更新作業 5 第4章 グラフの作成 グラフのレイアウトの変更・書式の変更 6 第5章 図形やSmartartグラフィックの作成 7 第6章 画像やワードアートの挿入・編集(トリミング、効果、反転、画質操作など) 8 第7章 特殊効果の設定 (アニメーション、画面の切り替え効果) 9 第8章 プレゼンテーションをサポートする機能 10 総合問題練習1～2 11 総合問題練習3～4 12 総合問題5にて理解度の確認 13 前期課題作成① (ポートフォリオなど) 14 前期課題作成② 15 前期試験・前期課題提出 16 パワーポイント実践問題① 17 パワーポイント実践問題② 18 プレゼンテーション発表のテクニック 19 発表用プレゼンテーションの作成、及発表リハーサル 20 課題プレゼンテーションの発表① 21 課題プレゼンテーションの発表② 22 MOS検定 PowerPoint 365対策テキスト&問題集 出題範囲①～③ 23 MOS検定 PowerPoint 365対策テキスト&問題集 出題範囲③～⑤ 24 MOS検定 模擬試験① 25 MOS検定 模擬試験② 26 MOS検定 模擬試験③ 27 MOS検定 模擬試験④ ⑤ 28 後期卒業課題作成① 29 後期卒業課題作成② 後期試験対策 30 後期試験・後期卒業課題提出
成 績 評 価 方 法	①出席率 30% ②試験及び課題提出 70% 上記2項目の合計を100点満点とし、成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	ビジネスマナー	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 西山百子 ホテル、航空会社勤務有 ビジネス実務マナー検定1級 サービス接客検定1級 ホテル実務検定(H検)ベーシック1級 ホテル、特定技能宿泊講師 企業ビジネスマナー新人研修(日本人)講師		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本での就職活動、就職を見据え、意識を育てる。授業では単に知識を身に付けるのではなく、学生一人一人にとってどのように応用できるか、社会で生かせるか導いていく。
到 達 目 標	就職に役立つビジネスマナーの基本をしっかりと身につけ、日常的に実践できるようになる。また就職活動のための準備も行う。
教 科 書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介 応用 職場での紹介 マンダラチャート記入 2 ビジネスマナーとは 日本人と働く心構え 3 時間厳守・終業時間 チームワーク 4 上司、同僚との付き合い方 5 面接練習(所作) 6 封筒、はがきの書き方 7 ビジネスメールの書き方① 8 ビジネスメールの書き方② 9 訪問のマナー 身だしなみ 10 名刺の扱い方 席次 11 役職、部署の名前 12 情報管理 カタカナビジネス用語 13 様々な雇用形態 福利厚生について 14 総復習 15 前期期末試験 16 話を聞く時 指示を受ける時 察する文化 17 謝罪の意味 注意を受ける時 ロールプレイ 18 配慮のある話し方①クッション言葉 19 配慮のある話し方②「～させていただく」 20 ウチトソトの関係 21 電話対応① 22 電話対応② 伝言メモ作成 23 報告 連絡 相談 24 ハラスメント 25 スピーチ「自分について」話し方クラス投票 26 日本の現状と問題 27 レポート「どうしてビジネスマナーが必要なのか」 28 総復習 29 後期期末試験 30 試験フィードバック ビジネスマナー所感
成 績 評 価 方 法	出席・平常点30%、試験70% 上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	総合日本語	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:半井麻里 都内日本語学校講師、海外(フランス)イベント・ガイド通訳翻訳業務、現地日語学校非常勤講師等に従事。		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本語能力試験(JLTP)N2レベルの言語知識(文字語彙)の定着を図り、読解力を強化する。導入や文づくりのほか、新聞記事やインターネットなどの視聴覚教材やSNSなども利用し、学んだ言語知識が社会的・学術的場面でどのように使われているかを理解し、また実践的に応用できるように運用力の強化も目指す。		
到 達 目 標	日本語能力試験(JLTP)N2レベルの言語知識(文字語彙)の定着を図り、読解力を強化す		
教 科 書	『スピードマスターN2漢字』(Jリサーチ出版)・『Try日本語能力試験N2文法から伸ば		
年 間 授 業 計 画	1 Unit1 衣食住① / 読解(短文) 2 Unit2 衣食住② 3 Unit2 趣味・活動①/ 読解(中文) 4 Unit3 趣味・活動② 5 Unit3 人・心・体①/ 読解(長文) 6 Unit3 人・心・体② 7 Unit3 人・心・体② 8 Unit4 仕事・組織② 9 Unit5 自然・環境① / 新聞記事 10 Unit5 自然・環境② 11 実践問題① 12 実践問題② 13 復習 14 前期試験 15 前期試験のFB 16 Unit6 地域生活①/ 読解(短文) 17 Unit6 地域生活① 18 Unit7 社会①/ 読解(中文) 19 Unit7 社会② 20 Unit8 科学①/ 読解(長文) 21 Unit8 科学② 22 Unit9 学問・研究①/ 読解(情報検索) 23 Unit10 学問・研究① 24 Unit10 N3-N5レベルの漢字① / 新聞記事 25 Unit10 N3-N5レベルの漢字② 26 実践問題① 27 実践問題② 28 復習 29 後期試験 30 後期試験のFB	・Try1 スタッフ募集のお知らせ ・Try2 転任のあいさつ1 ・Try2 転任のあいさつ2 ・Try3 ホテルの仕事 ・Try4 台風情報 ・Try5 就職活動1 ・Try5 就職活動1 ・Try6 苦労した5年間1 ・Try6 苦労した5年間2 ・Try7 オオカミと生態系1 ・Try7 オオカミと生態系2 ・Try8 取引先で ・復習 ・前期試験 ・前期試験のFB ・前期のまとめ ・Try9 食べ放題1 ・Try9 食べ放題2 ・Try10 満員電車1 ・Try10 満員電車2 ・Try11 ラーメンの紹介 ・Try12 ウォーキングシューズの開発1 ・Try12 ウォーキングシューズの開発2 ・Try13 人生の転機1 ・Try13人生の転機2 ・Try14 オリンピックの開催について ・復習 ・復習 ・後期試験 ・後期試験のFB	
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。		
備 考			

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	受験対策	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	半井麻里 国内・海外(フランス)にて日本語学校講師・ガイドイベント通訳翻訳業に従事。		

■授業科目情報

授 業 内 容	JLPTのN2合格を目標に、基本的な文字語彙・文法を正確に覚え定着していくようにする。ただ覚えるだけでなく、類語や対語にも着目し、徐々に自然な運用が出来るように進める。
到 達 目 標	短時間で正しい答えを選ぶと同時に、他の語彙や文法との相違点が瞬時に理解できるように練習を重ね、総合力をつけていく。
教 科 書	日本語パワードリルN2文字語彙・文法(アスク出版)、その他読解等
年 間 授 業 計 画	1 パワードリルN2 文字語彙・文法 第1回 2 パワードリルN2 文字語彙・文法 第2回 3 パワードリルN2 文字語彙・文法 第3回 4 パワードリルN2 文字語彙・文法 第4回 5 パワードリルN2 文字語彙・文法 第5回 集中トレーニング 動詞・助詞 6 パワードリルN2 文字語彙・文法 第6回 7 パワードリルN2 文字語彙・文法 第7回 8 パワードリルN2 文字語彙・文法 第8回 9 パワードリルN2 文字語彙・文法 第9回 10 パワードリルN2 文字語彙・文法 第10回 集中トレーニング カタカナ 11 パワードリルN2 文字語彙・文法 第11回 12 パワードリルN2 文字語彙・文法 第12回 13 パワードリルN2 文字語彙・文法 第13回 14 復習 15 前期試験 16 パワードリルN2 文字語彙・文法 第14回 17 パワードリルN2 文字語彙・文法 第15回 集中トレーニング 接続語・文末表現 18 パワードリルN2 文字語彙・文法 第16回 19 パワードリルN2 文字語彙・文法 第17回 20 パワードリルN2 文字語彙・文法 第18回 21 パワードリルN2 文字語彙・文法 第19回 22 パワードリルN2 文字語彙・文法 第20回 集中トレーニング 副詞・似ている文型 23 パワードリルN2 文字語彙・文法 第21回 24 パワードリルN2 文字語彙・文法 第22回 25 パワードリルN2 文字語彙・文法 第23回 26 パワードリルN2 文字語彙・文法 第24回 27 パワードリルN2 文字語彙・文法 第25回 集中トレーニング 慣用句・敬語 28 総復習 29 後期試験 30 FB
成 績 評 価 方 法	・出席30%・授業への貢献度及び前期後期試験評価点70% ・上記3つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出する。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学科名	IT学科	年次	2年
授業科目名	課題実習	授業方法	実習
年度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開講学期	前期・後期	授業コマ数	前期 15コマ 後期 15コマ
単位数	4.0	週間授業数	前期 1回 後期 1回
担当教員・略歴	担当:折茂美帆子- 実務(Panasonic HP企画運用/デジタルマーケティングなど) ・大学(情報科学/Data Science/AIなど) ・新入社員SE研修(富士通/SoftBank/東京三菱UFJなど) ・キャリア(税務大学/大原DX研修/企業研修Digital Marketing)		

■授業科目情報

授業内容	AIとData Scienceの基礎を学びます。前期はPythonやチャットボット、機械学習の実習を通してAIの仕組みを理解し、後期は統計の基礎とデータ分析手法を学習。ミニプロジェクトを通じて実践的にデータ活用力を養います。
到達目標	・Pythonを使ったAIの基本的なプログラムを作成できる ・統計手法を使ってデータを分析・可視化できる ・データドリブンな企画を実践し、ポートフォリオとしてまとめられる
教科書	なし
年間授業計画	1 AI 背景と今 2 AI チャットボット(Dialogflow) 3 AI (Python) Google Colaboratory設定確認 4 AI Pythonプログラム文法の概説 5 AI Python条件分岐 if 6 AI Python繰り返し for 7 AI Python変数名とデータ 8 AI 機械学習(Teachable Machine) 9 AI Pythonデータの読み込み import 10 AI Python繰り返し while 11 AI Python検索表示 input 12 AI ミニプロジェクト 13 AI デモテスト 14 AI ポートフォリオ 15 前期試験・課題提出 16 Data Scienceとは 17 Data Science 統計 - 確率 - コイントスの確率を求める 18 Data Science 統計 - ヒストグラム - 行動分析の記録とは 19 Data Science 統計 - F検定 - 行動分析の分析方法とは 20 Data Science 統計 - データクレンジング - 比較の方法とは 21 Data Science 統計 - T検定 - 統計を活用したグラフ化とは 22 Data Science 統計 - 時系列 - データの質と量とは 23 Data Science 統計 - データドリブンとは 24 Data Science 統計 - レビュー&フィードバック 25 Data Science Data Drivenミニプロジェクト調査 26 Data Science Data Drivenミニプロジェクト企画 27 Data Science Data Drivenミニプロジェクト制作 28 Data Science Data Drivenポートフォリオの作成 29 Data Science Data Drivenレビュー&フィードバック 30 後期試験・課題提出
成績評価方法	①出席率 30% ②試験及び課題提出・受講姿勢 70% 上記2項目の合計を100点満点とし、成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備考	